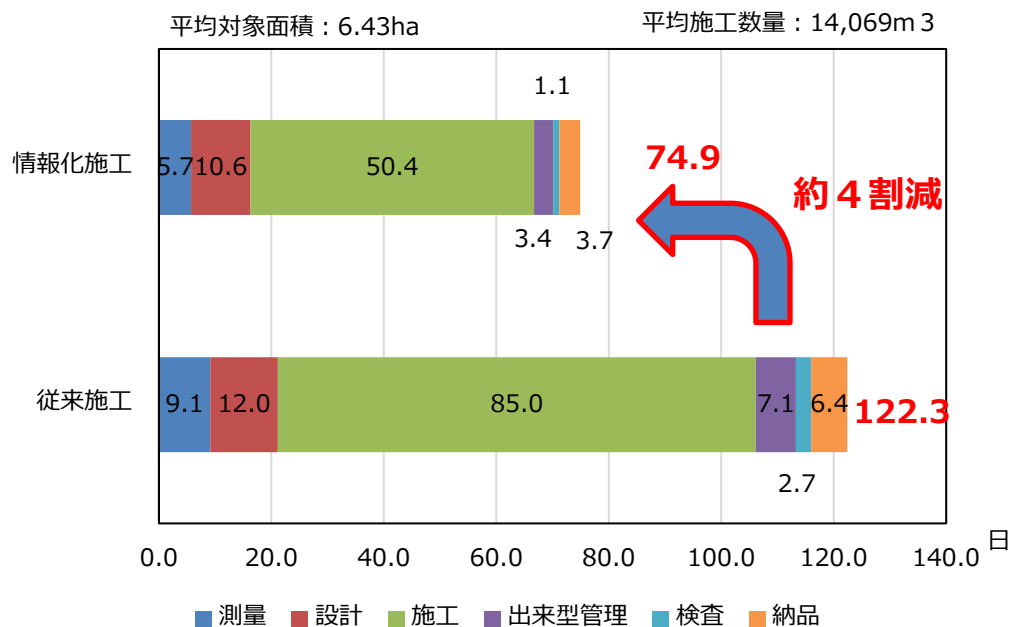


# 1 情報化施工の視点

## (1) 情報化施工の目的と効果

- 情報化施工の導入により、作業時間の大幅な短縮が可能となるとともに、自動制御による施工品質の向上や作業の安全性の向上などが図られる。

### ほ場整備工の延べ作業日数



※令和2年度に国営農業農村整備事業で情報化施工に取り組んだ施工業者へアンケート調査を実施し、ほ場整備工に取り組んだ施工業者からの有効回答件数7件の平均値から算出（ほ場整備工以外も含めたアンケート調査の有効回答数は全体で55件）。

※従来施工は施工業者の想定値。

※各作業が平行で行われる場合があるため、工事期間の削減率とは異なる。

### (効果の例) 法面整形工



従来施工では、「丁張り(ちょうはり)※」の設置や作業員によるガイドが必要。

従来施工による法面整形工



操作室のモニターで勾配等を確認

- ・「丁張り」無しで施工可能  
→ 作業の効率化
- ・建設機械周辺でガイドする作業員が不要  
→ 作業の安全性向上

ICT建設機械による法面整形工

※丁張り(ちょうはり)：位置、高さ、勾配を示す目印

# 1 情報化施工の視点

## (2) AR（拡張現実）システムを活用した地元説明

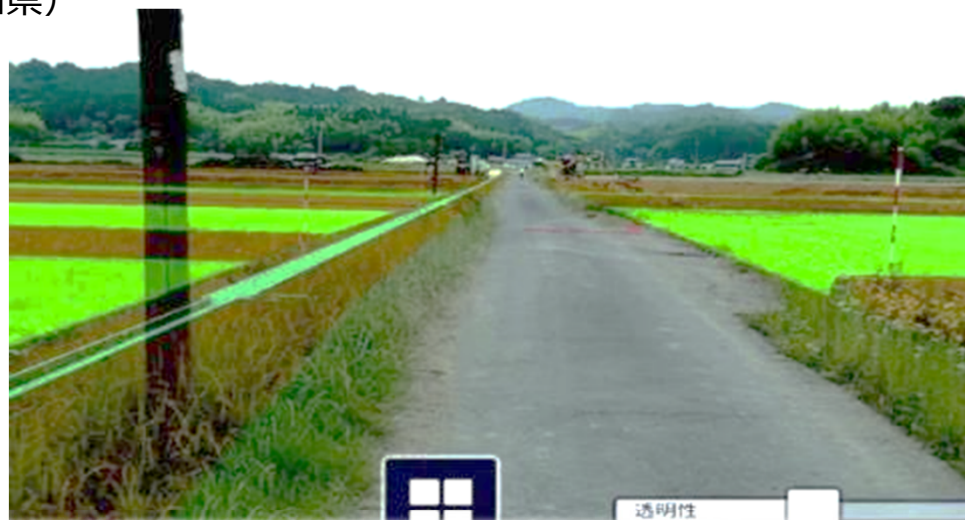
- 3次元設計データを視覚化したAR（拡張現実）を利用して、施工後の完成イメージを施工前に地権者等と共有することで手直し工事を減らすことが可能。

国営農用地再編整備事業 南周防地区の事例（山口県）



ARを用いた現地確認

資料及び写真提供：(株)川畑建設



AR画像（工事前後の高さ関係を表示）



AR画像（工事後の水路位置等を表示）